

【樹木・草花の部屋】

セイヨウニンジンボク（シソ科ハマゴウ属 *Vitex agnus-castus*）

和名；セイヨウニンジンボク **別名**；バイテックス、チェストベリー、イタリアニンジンボク

英名；

シソ目 落葉性低木

原産地；南ヨーロッパ 西アジア

花言葉；思慕・純愛・才能

花の色；紫・白



⇒ **写真－1** セイヨウニンジンボク

撮影日：2012年8月30日

撮影場所：岡山市郊外にて

撮影者：Mさん

帰省した際、ふと立ち寄った園芸店の駐車場で見つけました。入るときは気付かなかったのですが、さあ出ようとした時、フロントガラス越しに……。何か？と思い、近寄ってみるとセイヨウニンジンボクでした。一度期に蕾から実まで、……。ラッキーでした。

写真－2 セイヨウニンジンボクの花 ⇒

撮影日：2012年8月30日

撮影場所：岡山市郊外にて

撮影者：Mさん

夏から秋にかけて枝の先端にやや紫がかった青い小花を穂状に咲かせます。木が若い（小さい）内からよく花を付けるので、鉢花としても利用できるようです。日本には明治時代に渡来。



【樹木・草花の部屋】



写真-3 セイヨウニンジンボクの葉と蕾↑

撮影日：2012年8月30日

撮影場所：岡山市郊外にて

撮影者：Mさん



写真-4 セイヨウニンジンボクの実↑

撮影日：2012年8月30日

撮影場所：岡山市郊外にて

撮影者：Mさん

花後にできる果実は香りがあり、風味はコショウに似ており香辛料として使われたそうです。果実だけではなく、枝葉にも香りがあり、ハーブとしても知られています。また、利用目的で分けると花木とも言えます。

<ちょっと一言>

由来：中国原産のニンジンボクの近縁でヨーロッパ原産なのでセイヨウ（西洋）の名を冠しています。ニンジンボクの名前はこの植物の葉が手のひらを広げたような姿をしており、それがチョウセンニンジンの葉に似、更に草ではなく木なので「ボク（木）」が付きこの名前になったそうです。

剪定：自然樹形であり枝を切る必要はありませんが、樹形が乱れた場合は伸びすぎた枝を枝の分かれ目から切り落として短い枝を残します。枯れ枝や込み入った部分は自然樹形になるように切り取るとよい。また花後の枝は切取る。剪定の適期は落葉期の2月-3月。

増やす：花後にできる果実を採ってタネをまくか、さし木で・・・。さし木は3月頃に前年伸びた枝を用いるか、9月頃に本年伸びた枝を用います。

利用：優秀なホルモン効果をうながす作用があり、民間療法に利用されているそうです。中世の時代、この植物は女性の生殖システムの不調に使用されたようです。今日ドイツでの研究では、黄体形成ホルモンや催乳ホルモンの製造を増やす能力を持つと指摘しています。比較症例研究は実際に乳の流れを刺激することを確認しています。

分類：セイヨウニンジンボクを含むビテックス（ハマゴウ）属は以前、クマツヅラ科に分類されていましたが、現在ではシソ科に移されています。現在、発刊されている園芸図書のほとんどはクマツヅラ科で記載されているようです。

ちなみに、チョウセンニンジン（ウコギ）はウコギ科の多年草で本種とは植物的に縁遠いです。